

授業 科目	CT2J61	2単位	選 択	実 習	2学年後期	担当 教員	川田公仁 桜井ますみ 中川武 小野崎美奈子					
	教育実習Ⅱ											
授業 の 概 要	① 幼稚園及び認定こども園（以下、幼稚園とする）において、参加・責任実習を行うことにより子どもの理解と保育・教育指導の技術を習得する。 ② 園務に参加する。 ③ 実習後の振り返りでの体験発表をし、またクラスメートの発表を聴講することで情報を共有するとともに、自分自身の課題を明確にする。											
到達目標				学習成果Ⅰ			学習成果Ⅱ			学習成果Ⅲ		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1. 実習園の概要、教育理念、教育目標を知る。				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
2. 幼稚園等の役割・機能を理解する。				○	○	○	○	○	○	◎	◎	
3. 一日の保育・教育の流れを知り、幼稚園等における保育・教育の実際と子どもの生活状況を理解する。							◎	○	◎		○	
4. 子どもの興味や関心、友だちと教師の関わり、遊具や用具の使い方、並びに発達の状況など子ども全般について理解を深める。							◎	◎	◎	◎	◎	
5. 教師の保育・教育の方法や子どもとの関わりを通して、教師の役割と職務内容を理解する。							◎	○	○	◎	◎	
6. 見学・観察・参加実習を経て責任実習を行い、子どもの主体的な活動が確保されるよう子ども一人ひとりの行動の理解と予想に基づき計画的に環境を構成している実態を捉える。							◎	◎	◎	◎	◎	
7. 保育の5領域である「健康」・「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」に基づいて指導案を作成することができる。							○	○	○	○	◎	
8. 実習園で実施している特別支援教育、預かり保育及び子育て支援の実態を理解する。							◎	○	○	◎	◎	
9. 家庭との連絡及び連携の実態を理解する。							○	○	○	◎	◎	
凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はVページ参照												
<実習の内容> 1. 幼稚園の役割と機能を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・実習園の教育理念と教育目標を理解する。 ・年間指導計画・期間指導計画・月間指導計画・週案・日案に基づく一日の流れを理解する。 ・職員構成や物的、人的環境を把握する。 ・幼稚園の保育形態（縦割り保育・一斉保育、自由保育等）を踏まえながら観察し、どのような良さがあるのか考察する。 ・地域社会との連携がどのように行われているか理解する。 ・実習園と家庭とのかかわり方を理解する。 2. 子どもの理解 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの生活している様子を観察し、一人ひとりの特性に応じて対応できるよう努める。 ・発達段階をふまえながら子どもたちを観察し、大学で学んだ知識と現場での体験を関連づける。 ・子どもたちの自発的な活動としての遊びはどのように展開されているのか気づく。 3. 教師の役割と職務内容の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体的な活動が確保されるように、子ども一人ひとりの行動をどのように捉えてかかわっているかを理解する。 ・教師が幼児期にふさわしい生活ができるような物的・空間的環境をどのように構成しているか気づく。 ・子どもたちへのかかわり以外の場面においてどのような職務を行っているか理解する。 ・指導計画に基づいて教師がどのように一日の流れを展開しているかを理解する。 ・家庭との連携についてどのような方法があるか理解する。 												

4. 指導案の作成と実践・評価

- ・指導計画を教師の指導のもとに作成し実践する。その後、助言をいただき、評価する。
- ・責任実習終了後の反省と評価は次のような点から行う。
 - <計画全体について> ①計画通りに行えたか ②次活動への方向付けができたか
 - <子どもの姿について>①環境とのかかわりの中で主体的に活動できたか ②活動がのびのびとして活発であったか ③一人ひとりが活動に熱中していたか
 - <援助について> ①一人ひとりが意欲をもち、遊びの充実感を味わえる工夫ができたか

5. 自己の課題の明確化

- ・実習日誌や日々の保育、反省会等で受けた助言について素直に受け止め、翌日以降の実習につながることを心がける。
- ・実習中は客観的に自分の心の状態を見ながら臨む。

6. 守秘義務

- ・幼稚園等がどのように子どもや保護者、職員等の個人情報を管理しているか理解する。
- ・実習日誌や実習中にとったメモ、実習において知り得た情報の取り扱いには細心の注意を払う。

【実習の形態と方法】

○参加実習

- ・教師の立場に立って保育・教育活動に参加し、教師の役割を体験から学ぶ。その際に部分実習指導計画を作成することが望ましい。
- ・担当教師の助言のもとに保育・教育の準備や環境構成を担う。
- ・子どもと積極的に関わり、理解を努める。

○責任実習（部分・一日）

- ・将来、幼稚園教諭として現場に立つことを自覚して実習に臨む。
- ・指導に必要な技能（音楽、造形、身体表現等）の向上に努め、実習に臨む。
- ・教育課程に基づいた園の方針に従って、教諭の指導のもとに指導案を作成し、責任をもって保育・教育活動を行う。

【留意点】

○実習全般の留意点

- ・実習中に知り得た情報（子ども及び教職員の氏名や生年月日、自宅の住所・電話番号、成育歴、障がいや病名、家庭状況など）については、実習生であっても守秘義務が課せられるため、取り扱いには細心の注意を払う。
- ・実習園のきまり、約束事、日常生活行事などを把握する。
- ・園生活の流れを踏まえて観察し、適宜記録をとる。
- ・担当教諭の指示を得て行動し、独断で行動しないようにする。
- ・疑問に思うところは積極的に質問し指導を受ける。

○指導案作成上の留意点

- ・指導案は、実習園の指導計画（月・週案）の流れに沿って立案する。
- ・年齢、人数、場所、教材、時間などについて十分に把握し、立案する。
- ・導入の仕方、活動に集中するためのはたらきかけ、状況に合わせた柔軟な対応の仕方等を工夫する。
- ・子どもの実態を的確に把握する（興味、意欲、経験の差、疲労感等）。
- ・子ども一人ひとりの活動を予想し、その日の活動のねらいを明確にする。
- ・内容・活動は、その日のねらいを達成するために相応しいものを考える。さらに子どもの思いや願いを生かしたものになるよう努める。
- ・環境構成は、ねらいを達成するために適切なものになるように構成する。

成績 評価	実習日誌（40%）、実習園の評価表（40%）、実習報告書（20%） 合計 100%		
教員からの コメント	教育実習は幼稚園の多大な協力があって実施出来ることを理解し、実習をさせて頂く感謝の気持ちを忘れないようにしてください。 幼稚園での生活・保育・教育全てが園児の成長と人格形成の育成のためのものであることを認識し、優れた幼稚園教諭になるために真摯な気持ちで学んでほしいと願っています。		
教科書	書名 著者 発行所	推薦 図書	書名 著者 発行所

